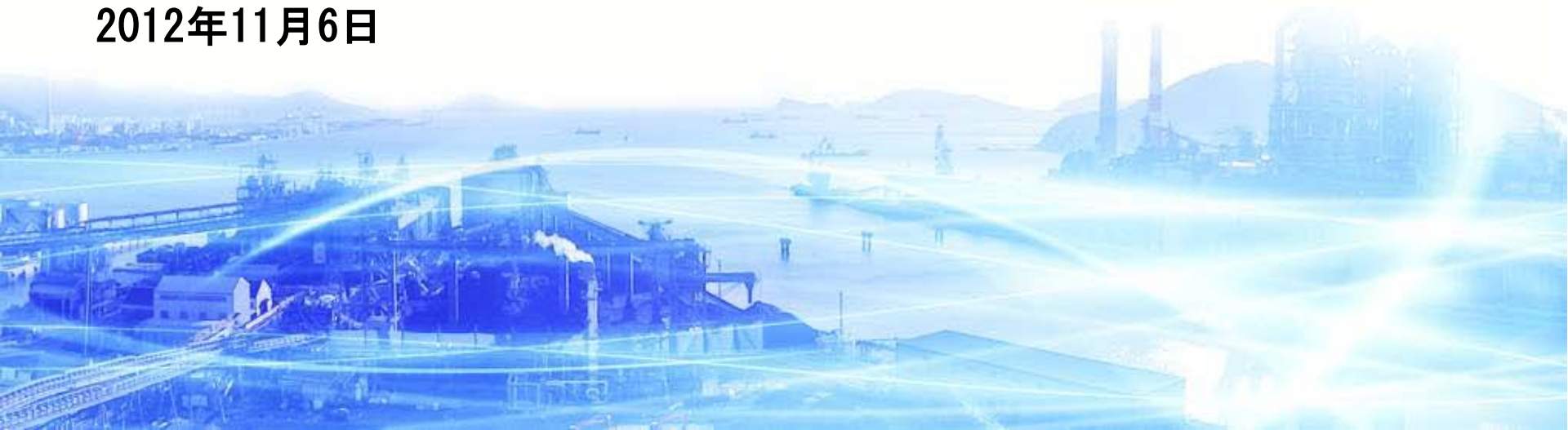


2013年3月期 第2四半期決算

決算説明会

株式会社トクヤマ

2012年11月6日



CONTENTS

—説明内容—

- 1 2013年3月期 第2四半期決算
- 2 2013年3月期 業績予想修正
- 3 多結晶シリコン事業
- 4 トピックス
- 5 補足資料

1 2013年3月期 第2四半期決算

1. 決算概要

2. セグメント別売上高／営業利益



① 2013年3月期 第2四半期決算

1. 決算概要

連 結 (前年同期比)

(億円)

	2012年 3月期 第2四半期 連結累計期間	2013年 3月期 第2四半期 連結累計期間	差 異	
			金額	%
売上高	1,419	1,259	△159	△11
営業利益	81	7	△74	△90
経常損益	56	△19	△75	-
四半期純損益	27	△25	△52	-

定性情報(前年同期比)

(売上高)

増収要因 : セメントの販売数量増

減収要因 : 多結晶シリコンの販売数量減・販売価格下落、
塩ビモノマーのプラントトラブルに伴う販売数量減

(営業利益)

増益要因 : 販売数量減等に伴う売上原価・物流費の減少、新基幹システムに関わる費用の減少

減益要因 : 売上高の減少

① 2013年3月期 第2四半期決算

1. 決算概要

連 結 (前年同期比)

(億円)

	2012年 3月期 第2四半期 連結累計期間	2013年 3月期 第2四半期 連結累計期間	差 異	
			金額	%
売上高	1,419	1,259	△159	△11
営業利益	81	7	△74	△90
経常損益	56	△19	△75	-
四半期純損益	27	△25	△52	-

定性情報(前年同期比)

(経常損益)

増益要因 : 為替差損の減少

減益要因 : 休止部門費の増加

(四半期純損益)

増益要因 : 税金費用の減少

減益要因 : エクセルシャノンの事業再構築引当金の繰入等による特別損益の悪化

① 2013年3月期 第2四半期決算

1. 決算概要

連 結 (前 期 末 比)

(億 円)

	2012年 3月末	2012年 9月末	増 減
総資産	5,011	5,285	+274
自己資本	2,492	2,433	△59
自己資本比率	49.7%	46.0%	△3.7ポイント
有利子負債	1,486	1,894	+408
D/Eレシオ	0.60	0.78	+0.18

① 2013年3月期 第2四半期決算

2. セグメント別売上高／営業利益 (前年同期比)

(億円)

	2012年3月期 第2四半期 連結累計期間		2013年3月期 第2四半期 連結累計期間		差異			
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	%	営業利益	%
化成品	427	8	385	△1	△42	△10	△10	-
特殊品	392	65	253	△4	△139	△35	△69	-
セメント	315	10	341	22	+25	+8	+12	+122
機能部材	252	15	245	11	△7	△3	△3	△25
その他	207	8	197	12	△10	△5	+3	+46
計	1,596	108	1,422	41	△173	△11	△67	△62
セグメント間消去・ 全社費用	△177	△26	△162	△33	+14	—	△6	—
連結決算	1,419	81	1,259	7	△159	△11	△74	△90

(注1)各事業セグメントの売上高にはセグメント間売上高を含む

(注2)2012年3月期第2四半期実績は、ファインケミカル事業及びNF
事業を特殊品から機能部材に移管した値に換算している

2 2013年3月期 業績予想修正

1. 今後の事業環境と対策
2. 業績予想修正の前提
3. 業績予想修正
4. セグメント別業績予想修正
5. 配当予想修正
6. 収益改善策

② 2013年3月期 業績予想修正

1. 今後の事業環境と対策

化成品

- ◆ 苛性ソーダの内需低迷、塩ビ関連製品の輸出市況悪化
 - ・ 価格是正、製造・物流コストの削減等により更なる収益改善に取り組む

特殊品

- ◆ 世界的な景気減速から、半導体・太陽電池市場ともに低迷
 - ・ 多結晶シリコンは、年間販売予定数量を下方修正、減産を継続

セメント

- ◆ 内需は民需・官需とも堅調で4,500万トン程度を見込む(復興需要200万トンを含む)
 - ・ 販売数量の上積みと販売価格の是正により、利益確保に努める

機能部材

- ◆ 国内外の消費財市場の成長鈍化
 - ・ 市場開拓による増収とコスト削減努力により利益拡大を図る
 - ・ エクセルシャノングループは事業再構築により、収益性回復に努める

全社

- ・ 全社を挙げての経費削減(役員報酬・従業員給与の削減含む)
- ・ 投資予算の削減、投資計画の絞り込み

② 2013年3月期 業績予想修正

2. 業績予想修正の前提

	2011年度上期 実績	2011年度下期 実績	2012年度上期 実績	2012年度下期 予想
国産ナフサ価格 (円/kℓ)	56,950	52,900	55,200	57,000
為替 (円/\$)	80	78	79	80

7/30修正時の前提(12年7月～13年3月)

国産ナフサ価格 : 50,000円 / kℓ
 為替 : 80円 / \$

② 2013年3月期 業績予想修正

3. 業績予想修正

連結（前回予想比）

（億円）

	2013年3月期予想 今回修正	2013年3月期予想 7/30修正	差異	
			金額	%
売上高	2,605	2,720	△115	△4
営業利益	30	100	△70	△70
経常損益	△15	65	△80	-
当期純損益	△25	25	△50	-

修正の理由

（売上高）

増収要因： 内需回復に伴うセメントの販売数量増

減収要因： 半導体・太陽電池市場低迷による多結晶シリコンの販売数量減、販売価格下落
景気減速に伴う苛性ソーダの販売数量減、塩化ビニルモノマーの輸出価格下落

（営業利益）

減益要因： 売上高の減少

ナフサ価格上昇による塩化ビニルモノマーの収益低下

② 2013年3月期 業績予想修正

3. 業績予想修正

連結（前期比）

（億円）

	2013年3月期予想 今回修正	2012年3月期	差異	
			金額	%
売上高	2,605	2,823	△218	△8
営業利益	30	137	△107	△78
経常損益	△15	115	△130	-
当期純損益	△25	93	△118	-

② 2013年3月期 業績予想修正

4. セグメント別業績予想修正

(前回予想比)

(億円)

	2013年3月期予想 今回修正値		2013年3月期予想 7/30修正値		差 異			
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	%	営業利益	%
化成品	790	15	825	40	△35	△4	△25	△63
特殊品	550	△20	610	25	△60	△10	△45	-
セメント	685	35	680	35	+5	+1	0	0
機能部材	520	25	535	25	△15	△3	0	0
その他	400	25	410	20	△10	△2	+5	+25
計	2,945	80	3,060	145	△115	△4	△65	△45
セグメント間消去・ 全社費用	△340	△50	△340	△45	0	-	△5	-
連結決算	2,605	30	2,720	100	△115	△4	△70	△70

(注)各事業セグメントの売上高にはセグメント間売上高を含む

② 2013年3月期 業績予想修正

4. セグメント別業績予想修正 (前期比)

(億円)

	2013年3月期予想 今回修正値		2012年3月期		差異			
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	%	営業利益	%
化成品	790	15	852	19	△62	△7	△4	△21
特殊品	550	△20	724	94	△174	△24	△114	-
セメント	685	35	684	29	+0	+0	+5	+19
機能部材	520	25	501	24	+18	+4	+0	+1
その他	400	25	403	20	△3	△1	+4	+23
計	2,945	80	3,166	188	△221	△7	△108	△58
セグメント間消去・ 全社費用	△340	△50	△342	△51	+2	-	+1	-
連結決算	2,605	30	2,823	137	△218	△8	△107	△78

(注1)各事業セグメントの売上高にはセグメント間売上高を含む

(注2)2012年3月期実績は、ファインケミカル事業及びNF事業を特殊品から機能部材に移管した値に換算している

② 2013年3月期 業績予想修正

5. 配当予想修正

中間配当につきましては、業績の急激な悪化を踏まえ、誠に遺憾ではございますが、平成24年11月5日開催の取締役会において見送りと決議させていただきました。

期末配当の予想につきましては、今後の業績や財務状態を総合的に勘案したうえで決定いたしたく、現時点では未定とさせていただきます。

引き続き、収益の改善に全力で取り組んでまいりますので、株主の皆様におかれましては、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

	1株当たり配当金		
	中間	期末	合計
予想(2012/8/1時点)	3円	3円	6円
今回決定	0円	未定	未定
前期実績	3円	3円	6円

② 2013年3月期 業績予想修正

6. 収益改善策

多結晶シリコンを始め当社の事業環境は来期以降も厳しい状況が予想されます。当社としましては早期の収益回復を図るため全社を挙げて収益改善策を計画・実行してまいります。

化成品	<ul style="list-style-type: none">・液化水素事業等の立ち上げ、拡大・物流・販売体制のさらなる効率化
特殊品	<ul style="list-style-type: none">・多結晶シリコン事業の抜本的改革(最適生産体制・コストダウン・営業強化)・事業、製品の選択と集中による収益改善
セメント	<ul style="list-style-type: none">・廃石膏ボードリサイクル事業等の立ち上げ・拡大・直系生コンや販社の収益改善
機能部材	<ul style="list-style-type: none">・中国(天津)での微多孔質フィルム生産能力増強・市場開拓による販売拡大とコスト削減
全社	<ul style="list-style-type: none">・研究テーマの厳選と事業化のスピードアップ・間接部門業務の見直し、スリム化

3 多結晶シリコン事業

1. 多結晶シリコン需給予測
2. 販売計画
3. 最適生産体制の構築
4. 稼動スケジュール
5. トクヤママレーシアコスト競争力強化
6. まとめ

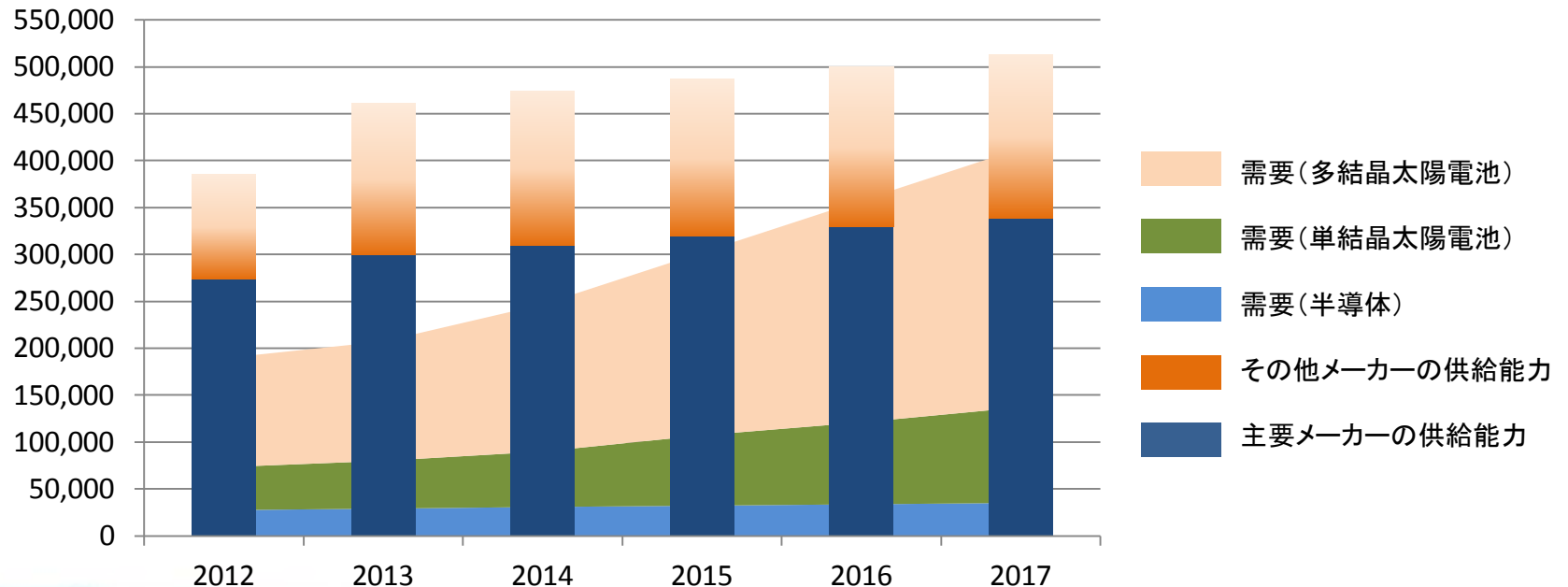
③ 多結晶シリコン事業

1. 多結晶シリコン需給予測

- 半導体向け、太陽電池向けともに供給過剰に伴い市況は急激に悪化。当面、市況低迷は続くと予測。
- 中・長期的には、需要拡大と、競争力のないメーカーの生産停止、撤退、増産計画見直しにより、需給ギャップは徐々に縮小すると予測。

供給能力／需要(トン)

当社予測



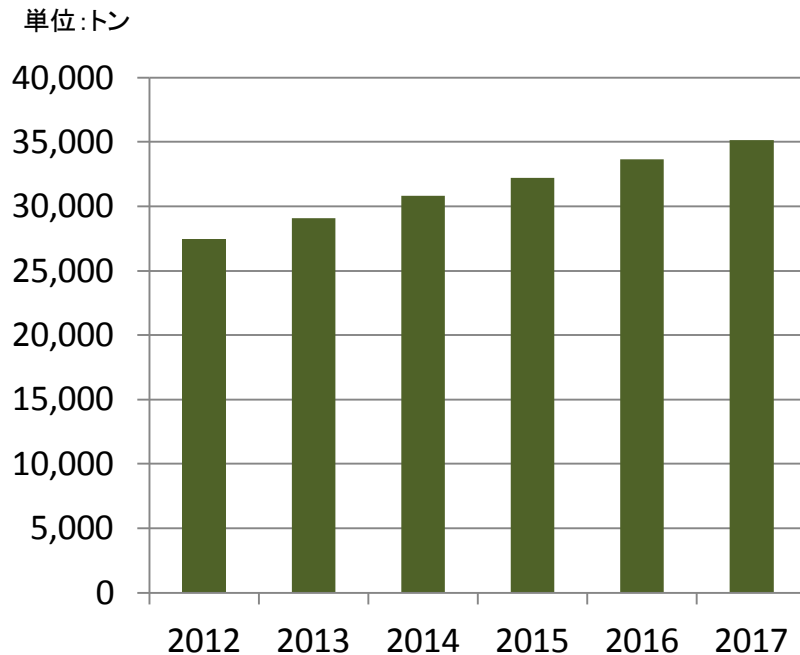
(注1) 主要メーカーは、SolarbuzzのTier1メーカー

(注2) 需要は、iSuppli、Solarbuzzを基に、当社予測

③ 多結晶シリコン事業

2. 販売計画 ①半導体向け多結晶シリコン

半導体向け多結晶シリコンの需要予測



(注)SEMI発表データを基に、当社予測

- ・新興国でのパソコン需要などを中心に、半導体市場は確実な成長(年率5%前後)が見込まれる。
- ・高品質多結晶シリコン(11N)が必須とされる。

【半導体向け多結晶シリコン販売計画】

市場で長年培った技術力とブランド力、更にトクヤママレーシアでの半導体向けグレード生産とコスト競争力を武器に

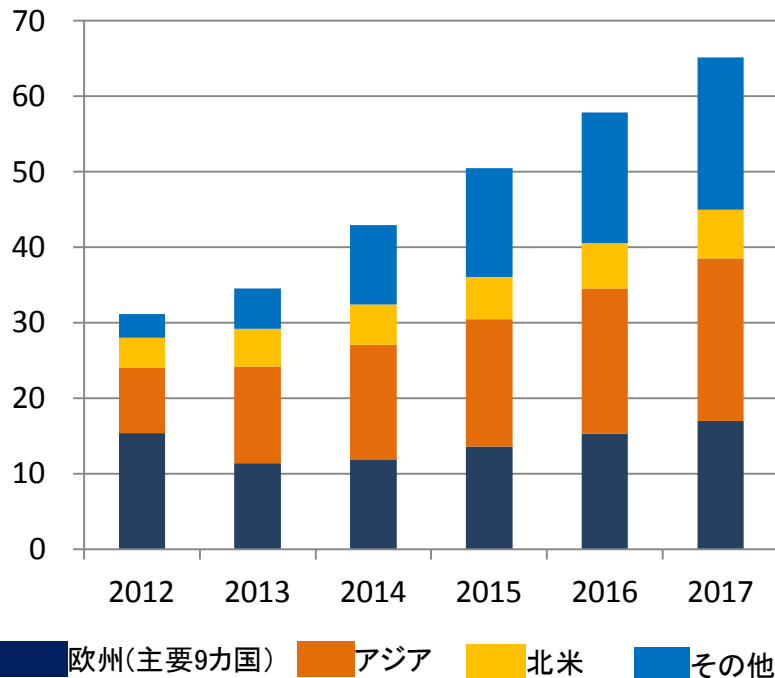
- ・長期契約をベースとした顧客との関係強化・取引拡大
- ・市場でのシェア維持

③ 多結晶シリコン事業

2. 販売計画 ②太陽電池向け多結晶シリコン

地域別太陽電池導入量予測

単位:GW



(注)IHS iSuppli Market Tracker (PV Integrated) Q3 2012 のデータを基に当社予測

- ・欧州は補助金削減により導入は頭打ちとなるが、アジア等で導入が伸びると予測される。
- ・年平均10～25%の成長が見込まれる。

【太陽電池向け多結晶シリコン販売計画】

<短期>

需給ギャップ及び在庫過剰による市況低迷が当面続くと予測されるため、数量拡大よりも利益を重視した販売戦略を取る。

<中・長期>

トクヤママレーシアのコスト競争力、高品質を武器に

- ・各国トップメーカーを始めとする顧客との取引拡大
- ・ソリューション提供による顧客との関係強化
- ・川下との連携による販売数量の拡大

③ 多結晶シリコン事業

3. 最適生産体制の構築

供給過剰により、当面市況低迷が続くと予測される。半導体・太陽電池の市場動向に応じ、徳山製造所とトクヤママレーシアで生産数量の調整を行うとともに、生産コストの最小化を図ることにより、最適な生産体制の構築を目指す。

	生産体制
徳山製造所	<ul style="list-style-type: none">・半導体向け高品質グレードの生産・併産品であるシリカやシランガスを含めた最適生産
トクヤママレーシア	<ul style="list-style-type: none">・半導体向け高品質グレードを目的生産物とし、顧客からの認定取得を目指す。(第1期プラント)・半導体向けは、徳山製造所とマレーシアの2拠点体制とする。・太陽電池向け高品質グレードの生産(第2期プラント)

③ 多結晶シリコン事業

4. 稼働スケジュール

【トクヤママレーシア】

- 第1期プラントは、今年11月末完成、試運転開始予定。2013年6月の営業運転開始に向けて予定通り進捗。半導体向けグレードの認定取得の準備を進める。
- 第2期プラントについても、2014年4月の営業運転開始に向けて工事は予定通り進捗。ただし、営業運転開始時期については、太陽電池の市場動向に応じて柔軟に対応する。



③ 多結晶シリコン事業

4. 稼働スケジュール

【徳山製造所】

- 今年8月より減産を開始。今後の稼働スケジュールは市場動向に応じて判断する。
- 1,800トンの増産プラントは、2013年春の稼働を予定していたが、稼働を延期することを決定。



③ 多結晶シリコン事業

5. トクヤママレーシアコスト競争力強化

<p>競争力 (計画策定時)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水力発電による安価で豊富な電気 ・連邦政府・州政府によるインセンティブ ・高品質品(11N)を低コストで安定生産可能な技術力 ・多結晶シリコン市場で長年培ったブランド力と営業力
------------------------	--

<p>更なる 競争力 強化策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・調達が多様化による原料の安定確保とコストダウン ・生産性向上による更なるコストダウン
----------------------------	--

キャッシュコスト 20%以上の削減を目標とする

(注)キャッシュコストの前提は、1期及び2期がフル生産時

③ 多結晶シリコン事業

6. まとめ

半導体向け、太陽電池向けともに供給過剰に伴い、
当面、市況の低迷が続くと予測。
コスト競争力強化を図り収益を改善することが喫緊の課題。

- ▶ トクヤママレーシアでは半導体向けグレードの認定取得とキャッシュコストの更なる低減
- ▶ 徳山製造所ではトクヤママレーシアとの最適生産体制の構築
- ▶ 販売では、当面、太陽電池向けは量的拡大よりも利益確保優先



トクヤママレーシアの本格稼働時、厳しい事業環境下においても利益を生み出せる事業体制を構築する

4 トピックス

1. 天津徳山塑料増設
2. 廃石膏ボードリサイクル



4 トピックス

1. 天津徳山塑料増設

- 昨年6月に中国における紙おむつ市場の伸長に対応するため、現地法人「天津徳山塑料有限公司」を設立し、微多孔質フィルムを生産開始する。
- 第1期は、生産能力は1.2億 m^2 /年、投資額は約12億円で、今年12月に稼働開始予定。
- 本年3月に第2期の増設を決定。
【第2期概要】
生産能力： 1.2億 m^2 /年
設備投資額： 約10億円
稼働時期： 2013年10月予定
- 中国での生産能力は、「上海徳山塑料有限公司」と合わせ4.8億 m^2 /年に



4 トピックス

2. 廃石膏ボードリサイクル

- チヨダウーテ株式会社と、廃石膏ボードのリサイクル事業を目的とした新会社を設立し、今年8月下旬より工場建設に着手した。
- 従来、家屋解体時に発生する廃石膏ボード中の廃石膏は、10%程度しか石膏ボード用原料として再生出来ず、大半が管理型の産業廃棄物として処理され、環境問題ともなっていた。新会社は、当社の長年蓄積した結晶化技術を応用して、廃石膏を石膏ボード用原料として100%再生することに成功した。



廃石膏ボード



当社技術により再生された石膏

5 補足資料

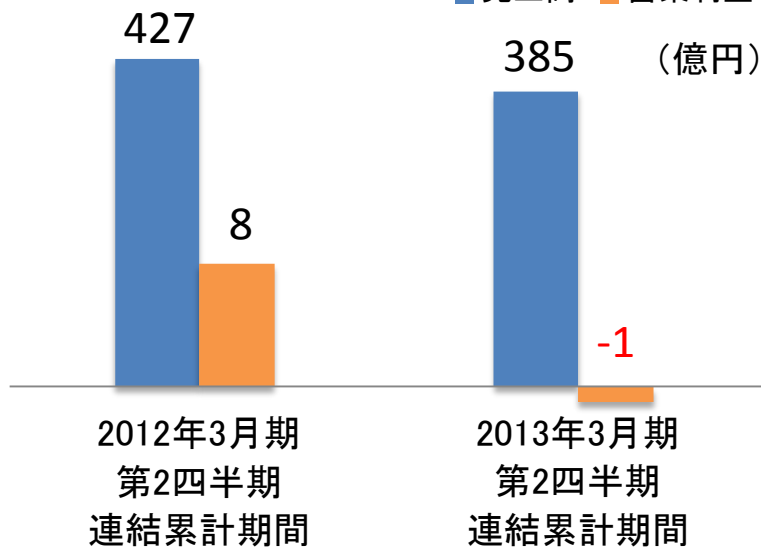
1. セグメント別売上高／営業利益
2. 連結財務諸表(要約)
3. キャッシュ・フローの状況
4. 営業外損益内訳
5. 特別損益内訳
6. 主要指標
7. 業績推移
8. 主要原燃料価格推移
9. 設備投資額推移
10. 有利子負債残高推移
11. 主要グループ会社売上高

5 補足資料

1. セグメント別売上高／営業利益 (前年同期比)

化成品

■ 売上高 ■ 営業利益
(億円)



定性情報(前年同期比)

(塩ビモノマー)

塩ビモノマープラントのトラブルによる販売数量減
アジアでの塩ビ樹脂市場の低迷による損益悪化

(苛性ソーダ)

塩ビモノマープラントのトラブルによる販売数量減
販売価格の是正による収益性改善

(塩ビ樹脂)

ナフサ価格上昇による損益の悪化

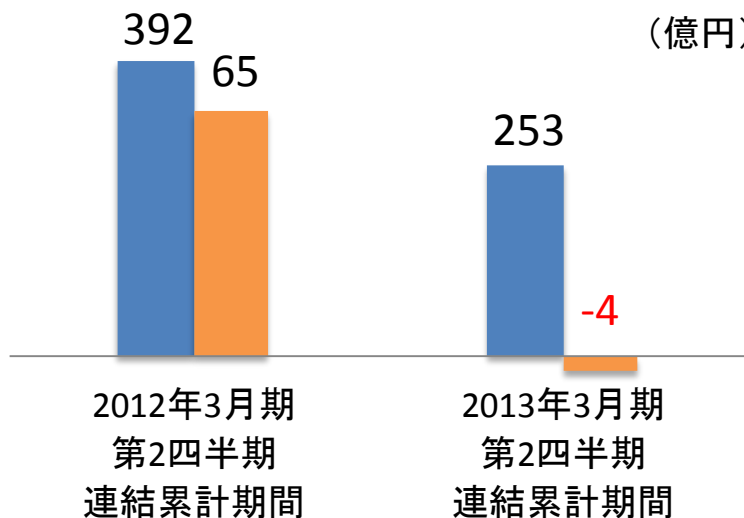
5 補足資料

1. セグメント別売上高／営業利益 (前年同期比)

特殊品

■ 売上高 ■ 営業利益

(億円)



定性情報(前年同期比)

(多結晶シリコン)

太陽電池パネルの供給過剰、半導体ウエハーの在庫調整による販売数量減・販売価格下落

(乾式シリカ、シェイパル、電子工業用高純度薬品)

半導体、液晶市場の低迷に伴い振るわず

(湿式シリカ)

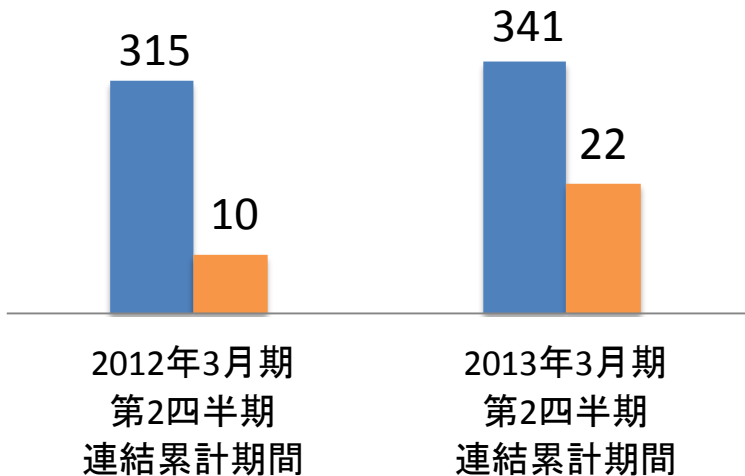
前期に事業撤退

5 補足資料

1. セグメント別売上高／営業利益 (前年同期比)

セメント

■ 売上高 ■ 営業利益
(億円)



定性情報(前年同期比)

(セメント)

国内需要の回復に伴う販売数量増
販売価格の是正

(資源環境事業)

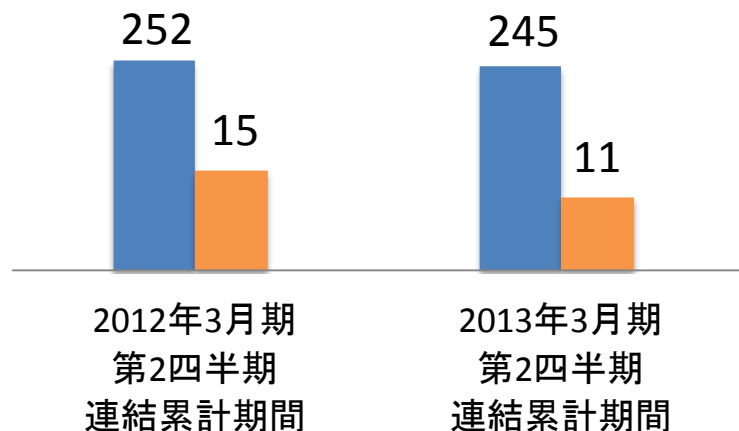
廃棄物受入量増
受入単価の是正

5 補足資料

1. セグメント別売上高／営業利益 (前年同期比)

機能部材

■ 売上高 ■ 営業利益
(億円)



定性情報(前年同期比)

(プラスチックレンズ関連材料)

前期に発生したタイ洪水によるサプライチェーンへのダメージで販売数量減

(微多孔質フィルム)

紙おむつ向け需要が好調で販売数量増

(ポリオレフィンフィルム)

原料価格の上昇により減益

(医療診断システム)

販売数量増と原価低減により増収増益

5 補足資料

2. 連結財務諸表(要約)

損益計算書

(億円)

	2012年3月期 第2四半期 連結累計期間	2013年3月期 第2四半期 連結累計期間	差異	
			金額	%
売上高	1,419	1,259	△159	△11
売上原価	1,012	948	△63	△6
販管費	324	303	△21	△7
営業利益	81	7	△74	△90
営業外損益	△25	△27	△1	-
経常損益	56	△19	△75	-
特別損益	△4	△11	△6	-
税前損益	51	△31	△82	-
法人税等	24	△6	△30	-
四半期純損益	27	△25	△52	-

5 補足資料

2. 連結財務諸表(要約)

貸借対照表

(億円)

	2012年 3月末	2012年 9月末	増減	
			金額	%
資産合計	5,011	5,285	+274	+5
流動資産	2,147	2,129	△18	△1
有形固定資産	2,263	2,619	+356	+16
無形固定資産	85	84	△0	△1
投資その他の資産	515	452	△63	△12

	2012年 3月末	2012年 9月末	増減	
			金額	%
負債合計	2,457	2,790	+333	+14
流動負債	1,027	945	△81	△8
固定負債	1,429	1,844	+415	+29
純資産合計	2,554	2,495	△59	△2

5 補足資料

3. キャッシュ・フローの状況

連 結

(億円)

	2012年 3月期 第2四半期 連結累計期間	2013年 3月期 第2四半期 連結累計期間
営業活動によるキャッシュ・フロー①	120	50
投資活動によるキャッシュ・フロー②	△120	△291
フリー・キャッシュ・フロー③(①+②)	△0	△241
財務活動によるキャッシュ・フロー④	228	393
現金及び現金同等物に係る換算差額⑤	0	△0
現金及び現金同等物の増減額⑥(③+④+⑤)	228	152
現金及び現金同等物の期首残高⑦	686	584
連結の範囲変更に伴う増減額⑧	—	—
現金及び現金同等物の期末残高⑨(⑥+⑦+⑧)	915	736

5 補足資料

4. 営業外損益の内訳

連 結
(前年同期比)

(億円)

		2011年 9月期	2012年 9月期	差損益	備 考
営業外収益	受取利息・配当金	3	3	△0	
	その他	15	10	△4	受取補償金 △3
	計	18	14	△4	

営業外費用	支払利息・社債利息	9	11	△1	
	その他	34	30	+4	為替差損 +9 休止部門費 △4
	計	44	41	+2	

営業外損益		△25	△27	△1	
-------	--	-----	-----	----	--

(注) 差損益の表示は、利益を+、損失を△としている

5 補足資料

5. 特別損益の内訳

連 結
(前年同期比)

(億円)

	2011年 9月期	2012年 9月期	差損益	備 考
特別利益	1	4	+3	固定資産売却益増 +2
特別損失	5	16	△10	事業再構築引当金繰入増 △8 固定資産売却損増 △4 固定資産減損損失減 +1
特別損益	△4	△11	△6	

(注) 差損益の表示は、利益を+、損失を△としている

5 補足資料

6. 主要指標① (前年同期比)

		2011年9月期		2012年9月期		増 減	
		連結	単体	連結	単体	連結	単体
設備投資額	億円	320	68	530	75	+210	+6
減価償却実施額	億円	136	112	114	91	△21	△20
研究開発費	億円	55	44	52	40	△2	△4
金融収支	億円	△6	+4	△7	+4	△1	△0

⑤ 補足資料

6. 主要指標② (前期末比)

		2012年3月末		2012年9月末		増 減	
		連結	単体	連結	単体	連結	単体
有利子負債	億円	1,486	1,285	1,894	1,705	+408	+420
期末人員	人	5,506	2,175	5,688	2,167	+182	△8

5 補足資料

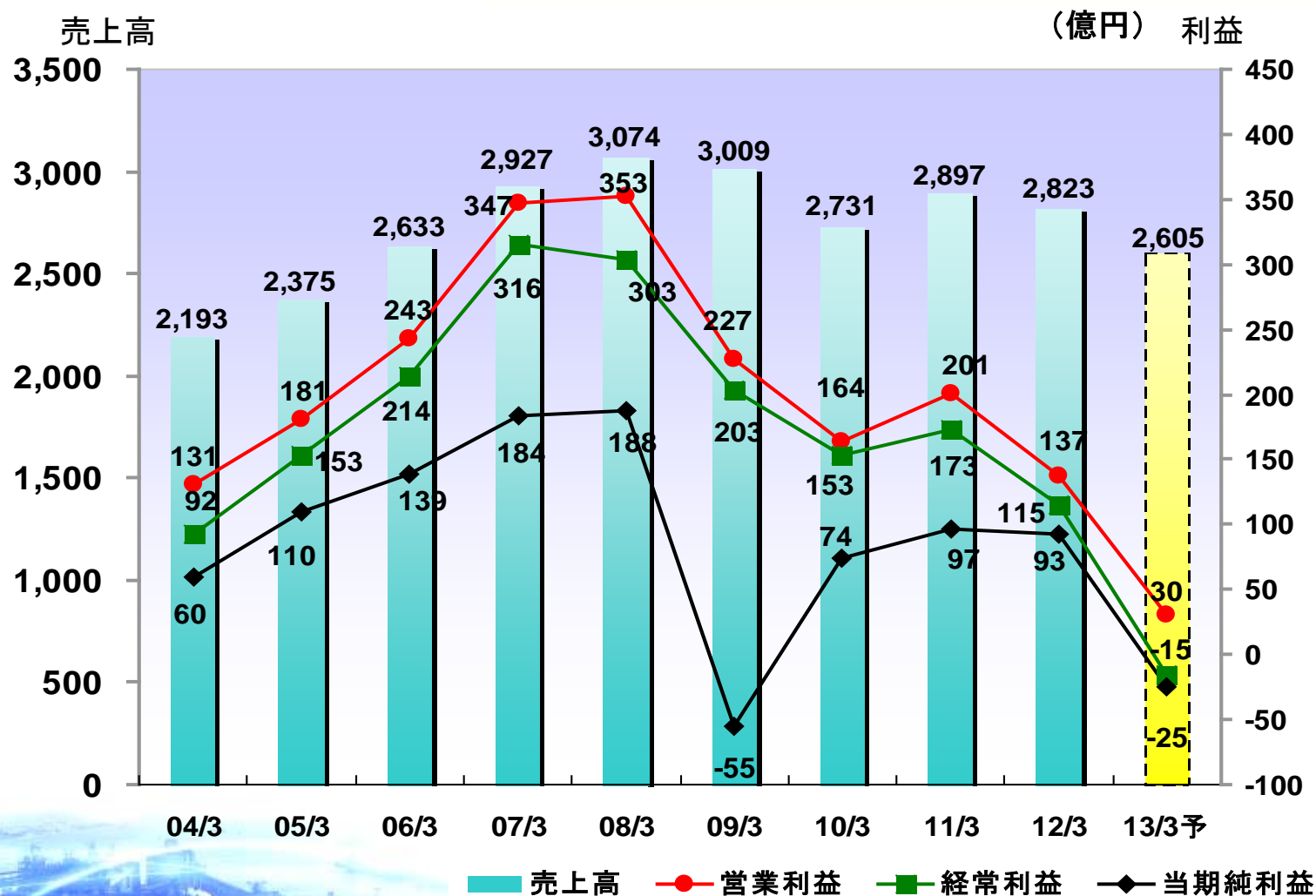
6. 主要指標③ 予想の前期比

(億円)

		12年度予想		11年度実績		増 減	
		連結	単体	連結	単体	連結	単体
設備投資額	認可枠合計	917	221	572	274	—	—
	見込(12年度) 実績(11年度)	972	187	776	139	+196	+47
減価償却費		237	191	284	236	△47	△45
研究開発費		112	87	117	94	△4	△7

5 補足資料

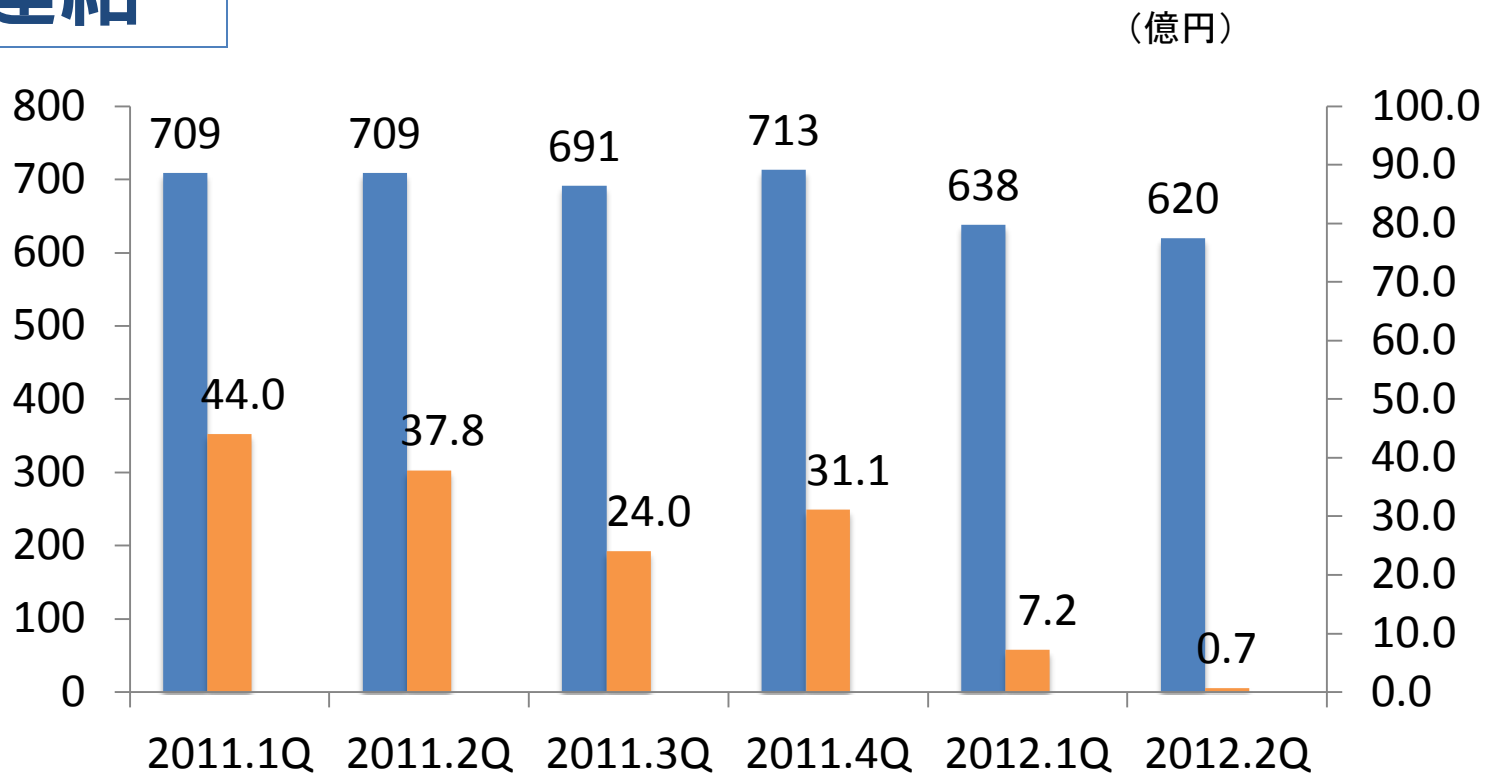
7. 業績推移 (通期)



5 補足資料

7. 業績推移 (四 半 期)

連結

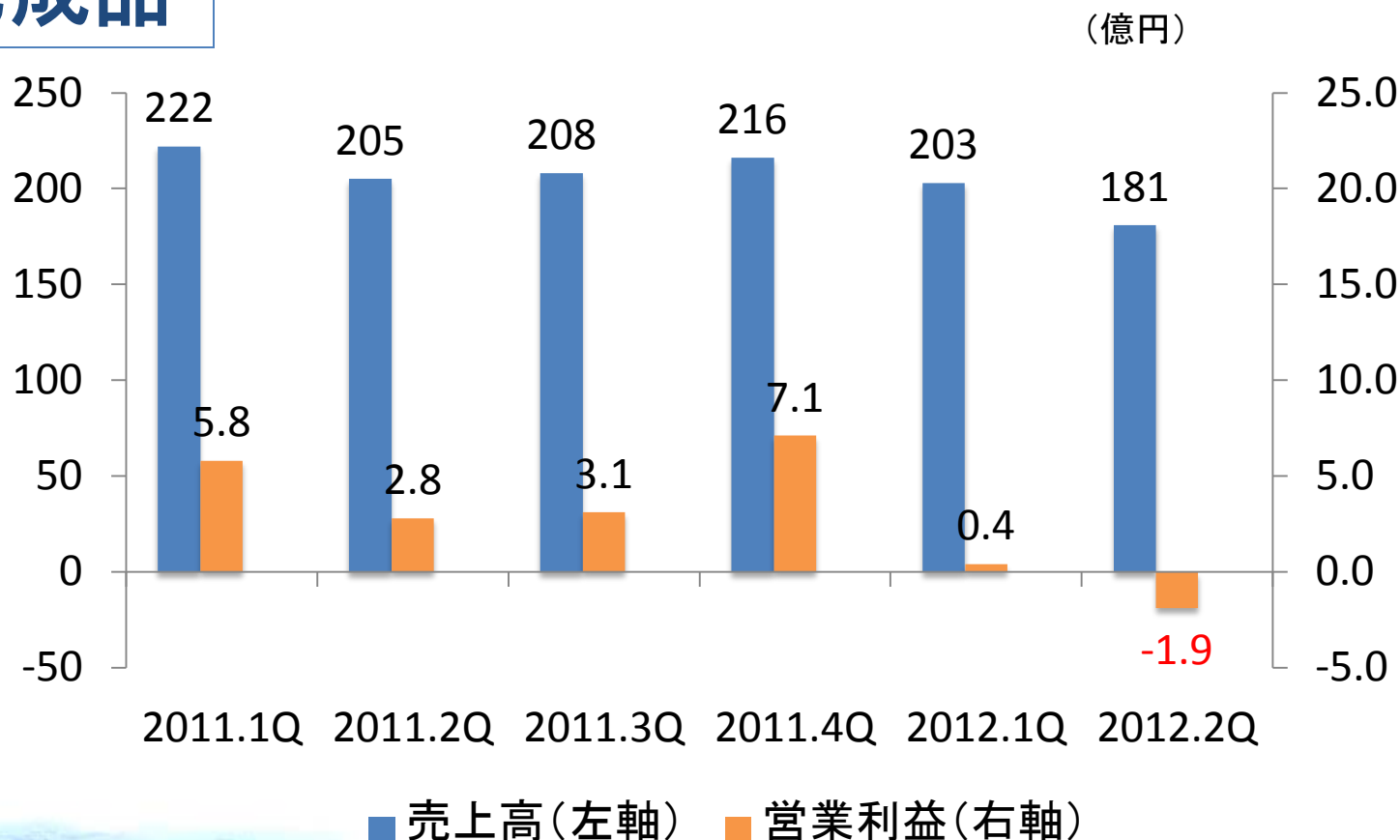


■ 売上高(左軸) ■ 営業利益(右軸)

5 補足資料

7. 業績推移 (四 半 期)

化成品

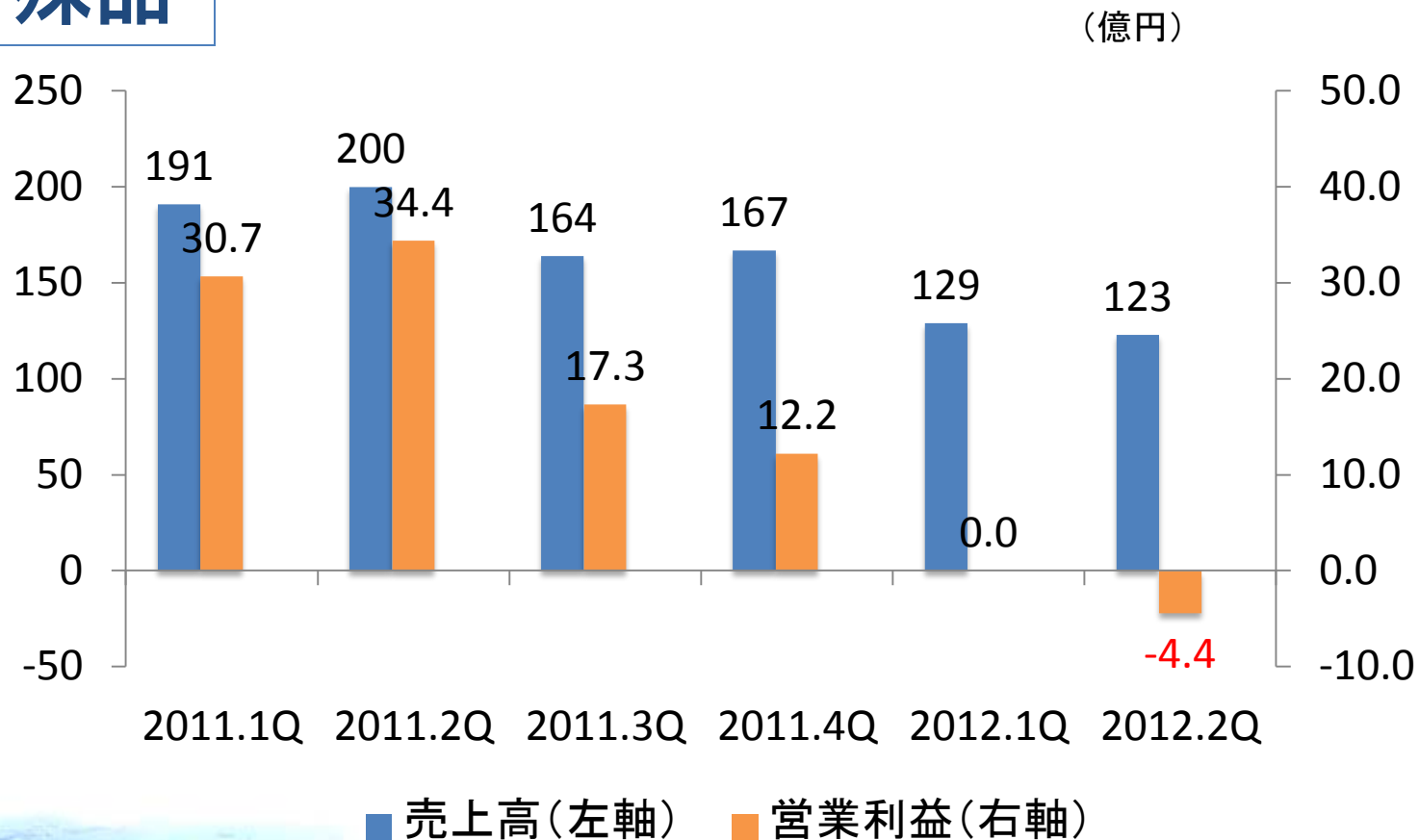


(注1) 売上高にはセグメント間売上高を含む
(注2) 営業利益から全社費用が控除されていない

5 補足資料

7. 業績推移 (四 半 期)

特殊品

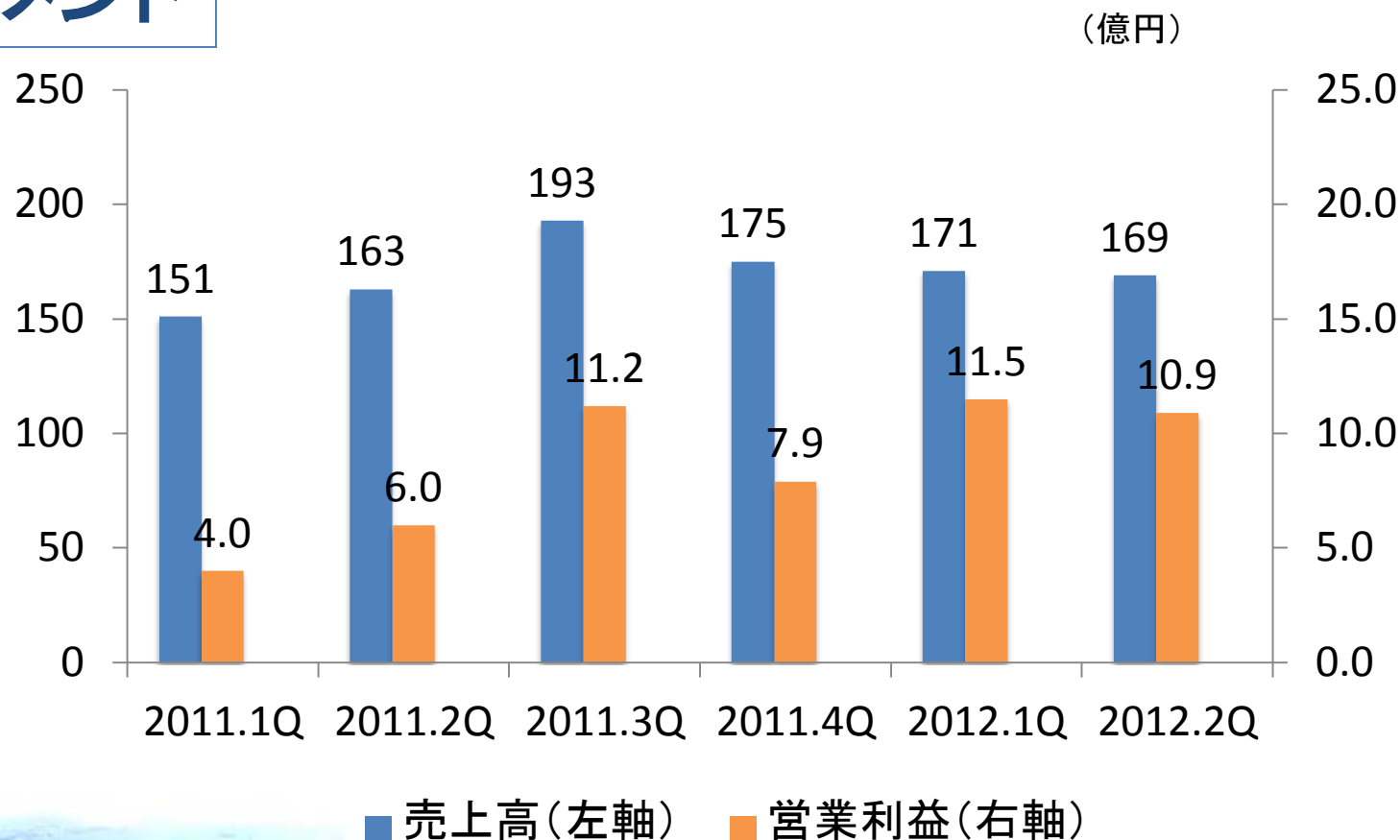


(注1) 売上高にはセグメント間売上高を含む
(注2) 営業利益から全社費用が控除されていない

5 補足資料

7. 業績推移 (四 半 期)

セメント

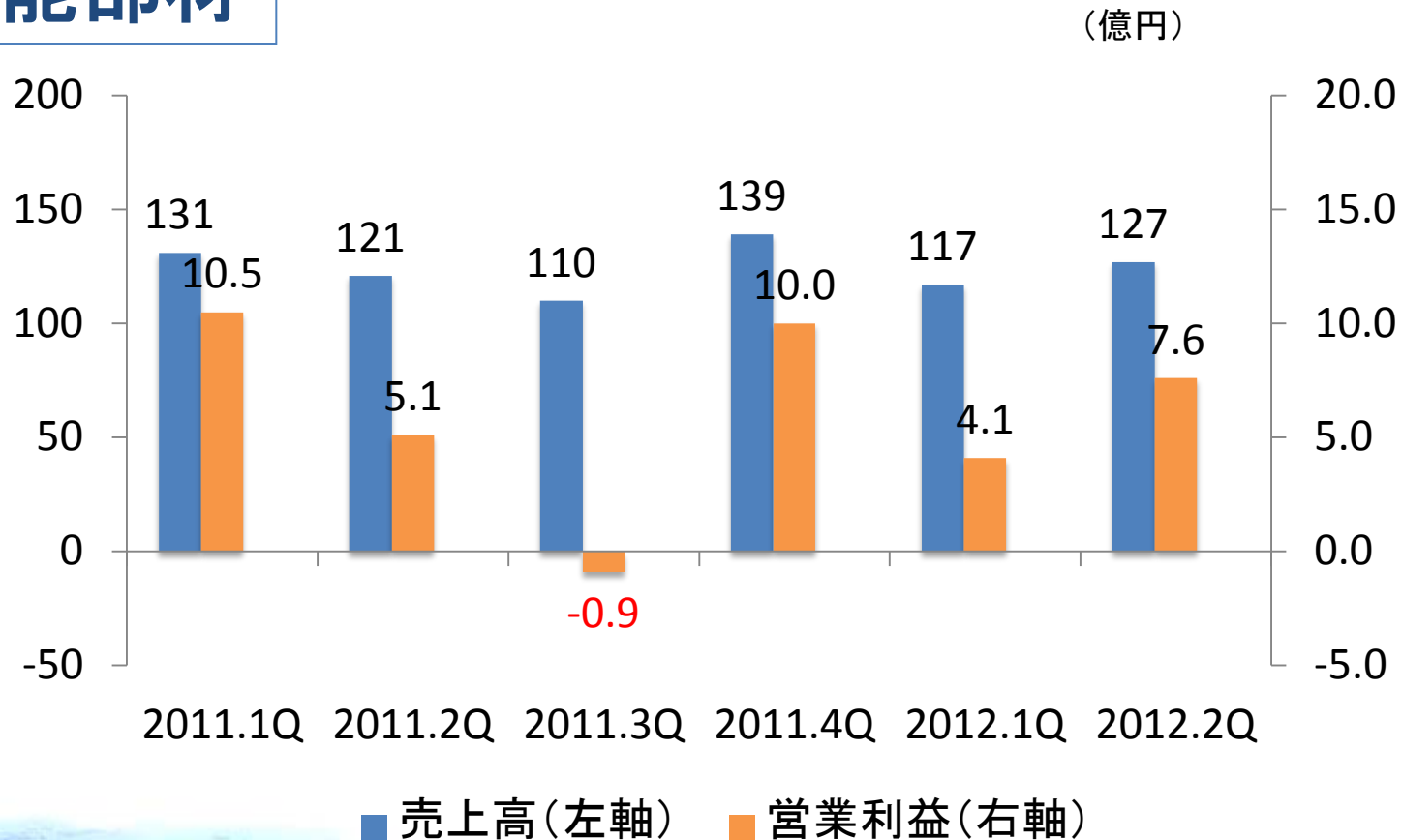


(注1) 売上高にはセグメント間売上高を含む
(注2) 営業利益から全社費用が控除されていない

5 補足資料

7. 業績推移 (四 半 期)

機能部材



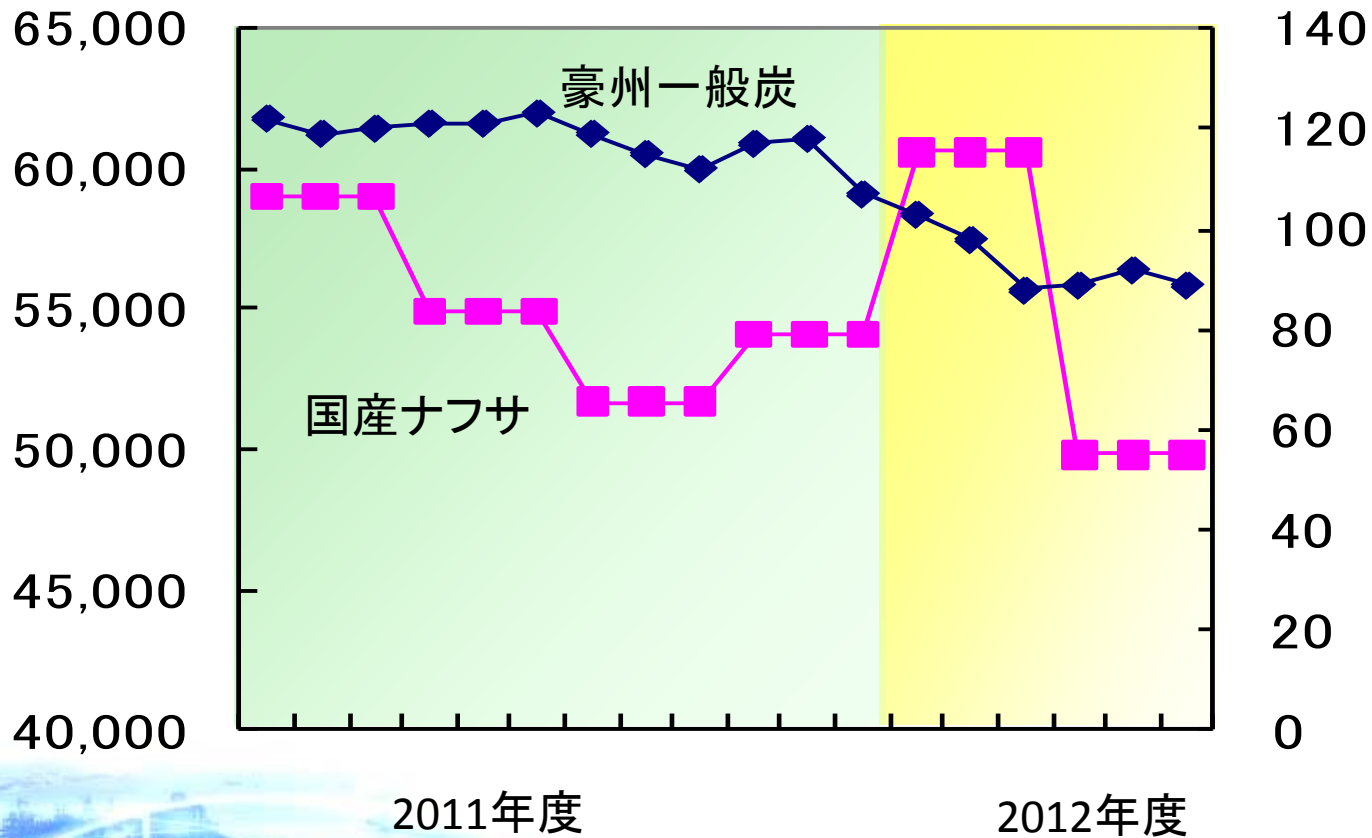
(注1) 売上高にはセグメント間売上高を含む
(注2) 営業利益から全社費用が控除されていない

5 補足資料

8. 主要原燃料価格推移

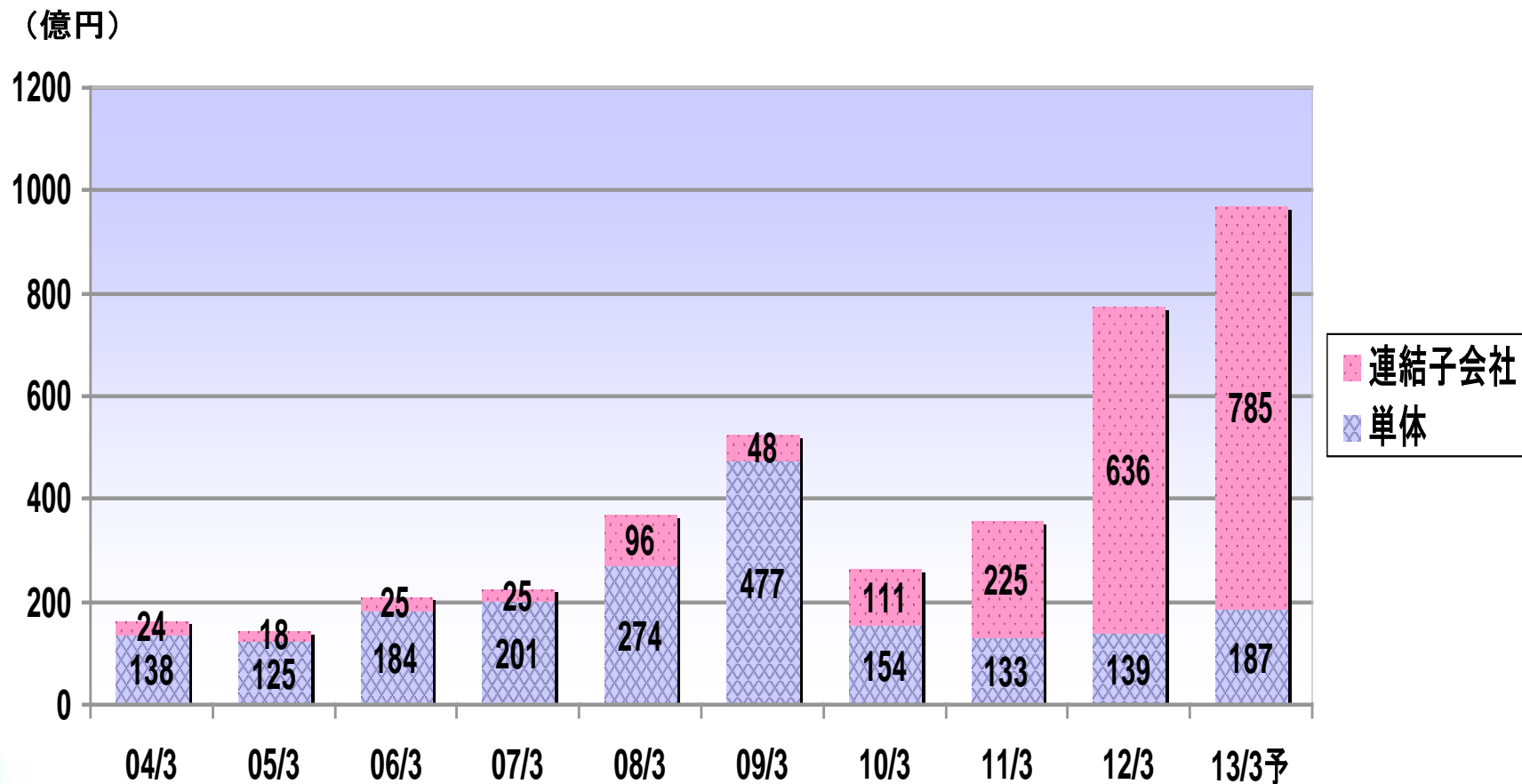
国産ナフサ価格
(円/kl)

豪州一般炭スポット価格
(\$/トン)



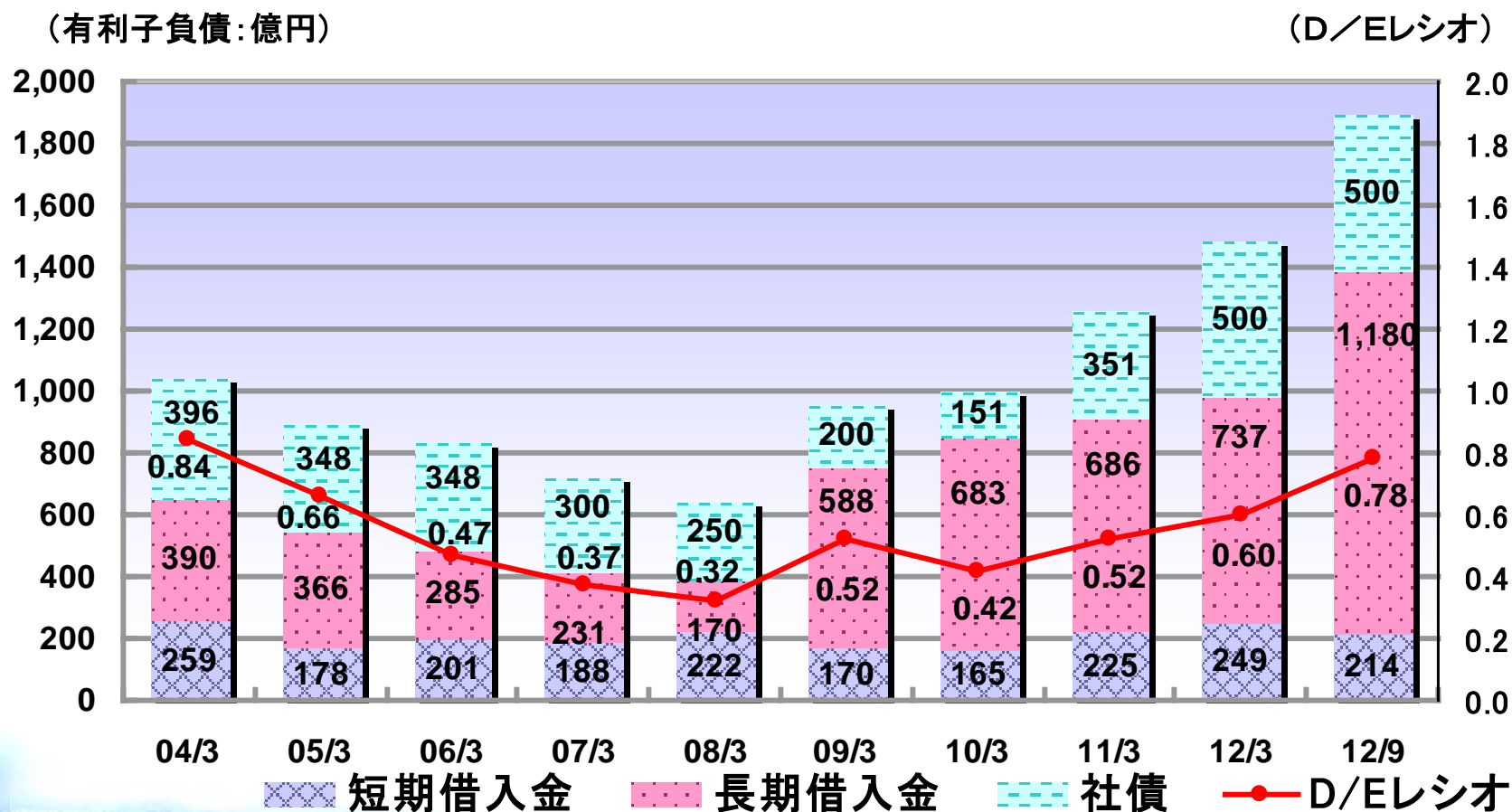
5 補足資料

9. 設備投資額推移



5 補足資料

10. 有利子負債残高推移 連結



5 補足資料

11. 主要グループ会社売上高

	会社名	事業内容	資本金 (百万円)	出資比率 (%)	売上高 (百万円)	
					11年9月期	12年9月期
①	トクヤマ通商(株)	セメント・生コンクリート、各種建設資材の販売	95	100	9,927	10,235
②	新第一塩ビ(株)	塩化ビニル樹脂の製造販売	2,000	71	10,386	9,765
③	サン・トックス(株)	プラスチックフィルムの製造販売	1,600	100	7,980	8,264
④	(株)トクショウ	生コンクリート、各種建設資材の販売	40	100	3,825	4,635
⑤	関西トクヤマ販売(株)	生コンクリート、各種建設資材の販売	80	100	3,934	4,634
⑥	(株)エイアンドティー(12月決算)	臨床診断分析機器、試薬及び関連システムの販売	578	40	3,695	4,187
⑦	(株)エクセルシャノン	プラスチックサッシの製造販売	495	100	3,394	3,108
⑧	フィガロ技研(株)	ガスセンサ素子及び応用製品の製造販売	99	100	2,179	2,345
⑨	徳山化工(浙江)(有) (12月決算)	乾式シリカ、TCS、STCの製造販売	351.2 百万元	100	1,790	1,559

本資料に関するご注意

本資料は情報提供を目的とするものであり、何らかの勧誘を目的とするものではありません。

本資料は現時点で入手可能な情報に基づき作成したものでありますが、不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。

本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じるいかなる損失に対しても、当社は責任を負いません。

